

國學院大學學術情報リポジトリ

〔紹介〕 佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 靖民, Suzuki, Yasutami メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000411

紹介

佐藤長門編

『古代東アジアの仏教交流』

鈴木靖民

この書は七～一三世紀の中国・朝鮮・日本の東アジア世界で、仏教がどのように受容され展開したのかを、一一編の実証論文（ほかに特別寄稿一編）によって解明した論文集である。

仏教はインドで発生し、主に陸と海のシルクロードを辿って中国に様々な形で広まり、朝鮮各地、そして六世紀に日本（倭）へと伝わった宗教である。信仰のための施設は土饅頭状から途中で埴、石窟に変わり、中国で木造建築が主流となり、百済を経て日本にも達した。釈迦の説に始まる教義、物語が纏められた經典も、僧たちによって梵文から漢文に何度も翻訳され、唐や百済・高句麗・新羅の王権と僧尼を通して仏像を伴いつつ、日本に伝わった。仏教は各地の環境や人によって変容し、土着の信仰や文化との融合を遂げたが、その過程で解釈、教学の多様性から各種の学派、宗派を生じ、独自の発展を示した。各時

代の政治、経済（交易）と関わって隆盛を遂げ、時に迫害に遭うなどして衰退した。

この書はこうした基本を踏まえ、中国、韓国、日本の文献史学、仏教史学、考古学の第一線の専門家がそれぞれの視点から多様な歴史に迫る。中国長安の寺院、入宋僧の求法地選択、日中の仏教制度の異同、仏教信仰の越境性と広域性、新羅の諸宗派の展開、新羅・高麗の禪宗の弱体化と交流、平安仏教の中世への転換と宋仏教、平安密教と王権・国家との関連、入唐僧伝の編纂、真言宗の宗長者の成立、祭祀と地域の仏教信仰を、個々具体的に追究している。

この書のもとには國學院大學で開かれた国際シンポジウムであり、共同研究による国際性豊かな成果が特色である。それと不可分の関係で、従来の日中、日朝（韓）の交流や関係という二国間に限られることの多い仏教史研究を超えて、東アジア世界の枠組みを設定し、その中で日本仏教の様相を浮かび上げさせる問題提起としての意義をもつ。今日、この種の企ては新たな歴史枠組みを知るために有用であり、ドメスティックな日本史認識の壁にも突破口を開くであろう。

（A5判上製、三六八頁、勉誠出版、二〇一八年六月発行、八〇〇〇円＋税）